

注目素材

化粧品素材の供給を行うヒタミンC60バイオリサーチ(本社東京都、林源太郎社長、03-3517-3251)は、提案するフラーレン

素材について、植物由来化を進めている。全6素材中5素材の植物由来化をすでに完了。来年の2月までに全素材が植物由来化する予定だ。化粧品にも、「SDGs」「サ

り、同社のフラーレン素材の注目度もさらに高まっている。

同社では、油性性素材「リポフラーレン」を皮切りに、フラーレン全6素材の植物由来化を進めている。今年4月には、100%植物由来化した「リポフラーレン」をリニューアル発売。10月には、主力の水溶性フラーレン素材「ラジカルスポンジ」についても植物由来化し、「ラジカルスポンジ」としてリニ

「G」マーク別掲参照を表示することが可能となっている。

ISO16128に基づいた「自然由来指数」は、各素材によって異なる。「リポフラーレン」「ウェールフラーレン」の自然由来指数は、理論上の最高値である1(100%)となっている。「モイストフラーレン」についても、自然由来化後は、自然由来指数が1になる見通しだとい

「Laminated Paper Flare」素材

全6素材中5素材の植物由来化完了

ステイナビリティ「エコ」「ナチュラル」「クリーンビューティー(※参照)」といったことへの対応がより強く求められるようになってお

ール発売した。メイク製品のパウダータイプの「ヴェールフラーレン」や、ヘアケア専用原料「ヘアシャイニーフラーレン」、日

各素材とも、リニユーアル後も価格は据え置きとしており、顧客企業からは喜ばれている。

リニユーアルに当たっては、原料として、高級木材である宮崎県産の杉を使用。木の使用量を抑えるために、森林の持続可能で健全な管理をするために制定されたクリーンウッド法に認定された企業でペレットに加工している。サステイナブル性が、他の木材に比べて高いという。



植物由来フラーレンへのリニユーアルを行う予定だ。

植物由来化した原料を1%以上配合した化粧品には、「植物由来フラーレン」のロ

素材製造時には、クリーンエネルギーといわれる水力発

電で得た電力を用いており、環境への負荷が低いとしている。

素材の容器についても、従来のブリキ缶からキャップ付きアルミパウチに変更。使用後の廃棄物の体積、重さが8割低下した。廃棄物の削減に貢献する。

同社ではこれまで、数多くの試験を実施し、膨大なエビデンスを蓄積してきた。学術誌に掲載された、化粧品素材としてのフラーレンに関する論文数は40報にも及ぶという。研究では、美白、抗シワ、毛穴改善、バリア機能改善など、多岐にわたる効果が解明されてきた。植物由来化したフラーレン素材にも、従来のフラーレンと同様の機能性・品質が期待できるとい

同社のフラーレン素材は、SDGsやサステイナビリティといった新しい概念にマッチしているだけでなく、優れた機能性を併せ持つ。今後注目度はますます高まりてくる

※クリーンビューティーとは、自然・天然の原料を使用するなど、環境に配慮した安全な化粧品などによる美容。